



The Association of Liquid Filtration and Purification Industry

# LFPI News Letter

## Spring 2013 No.63

### 遠心力



地球上の物体を地球に引きつけようとする力を“重力”という。厳密には、地球との間に働く万有引力と地球の自転による遠心力との合力である。

我社はこの重力の数千倍～1万倍の力を回転体内に与え、その遠心力により液体、固体または比重の異なる液体を分離させる装置、遠心分離機を製造しております。

遠心分離機的主要用途は、船舶の油清浄機、下水・排水の清澄、固形物の脱水、コーヒー・紅茶・緑茶といった抽出物のろ過、牛乳の清澄・分離、菌体の濃縮回収、油水分離等、広い分野で使用されています。

弊社の製品は日本国内では主に飲料、食品、海外では主に澱粉の精製、パーム油の分離、菌体の濃縮という分野で多くの実績を残してきましたが、近年はバイオディーゼル・バイオプラスチック・ナノ粒子化されたレアメタルの回収など新しい市場でのニーズが有り、常に新たな分野で役立てる様、挑戦を続けております。

従来、当社製品の納入地は国内7割、海外3割といった比率でしたが、昨年は初めて海外納品が国内実績を上回りました。

これは、我々の顧客であるメーカーが市場を海外に求める事と海外で生産する事により国際競争力をつけるといった、両面が考えられます。

日本のメーカーの多くは、国内で検証用のミニプラントを建築し、本プラントは海外にシフトし競争力を持つという傾向が加速されているように思われ、この事は、製造業において国内生産は人件費のみならず、日本を取巻く様々な環境が製造業には競争力を持たない、すなわち適さない要因となっている事が残念ながら現実です。

高度成長時代の日本は、企業には“求心力”が求められ皆が同じ方向を向き、ひたすら汗をかくことで成長をとげましたが、今の時代は、1人1人が自分の殻を破り、自分達の技術、及び信念を持って海外へと突き進む、“遠心力”が求められている様に思われる。

製造業に従事している人の割合が50%を割った現在、製造業に携わる人間として、ものつくりの原点を見失うことのない様、4つの創造と誠実(需要、市場、技術、商品)を常に心掛け、円安、円高に左右されないオンリーワンな企業を目指し、ものつくりを精進したいと思います。

齋藤遠心機工業株式会社

代表取締役社長 齋藤 先生

# InterAqua 2013報告

1月30日、31日、2月1日 東京ビックサイト

今年のインターアクアは、同事務局の好意で、3小間の無償供与をいただき、4小間での出展となり、9社のテーブルトップ展示(キッツマイクロフィルター、JNCフィルター、ニクニ、内外化学製品、日本精線、ナック、石川金網、サンウェル、アクアテック(非会員、サンウェル関連企業))と本部によるLFPI紹介(パネルによる)と出版物の販売を行った。

LFPI16年の活動を振り返り、何をインターアクアでアピールするかと考えた時、「実践的」という言葉が相応しいということになり、「実践的な技術者を育てるLFPI」と「実践的に役立つLFPI出版物」をキャッチコピーとして大々的に掲示した。

インターアクアによる出版物の売上は、3日間で41冊 ¥72,600なり、当会ブースへの訪問者数は3日間で178社201名という結果であり、テーブルトップ展示の各社から有意義な商品PRができたこと好評だった(文中敬称略)

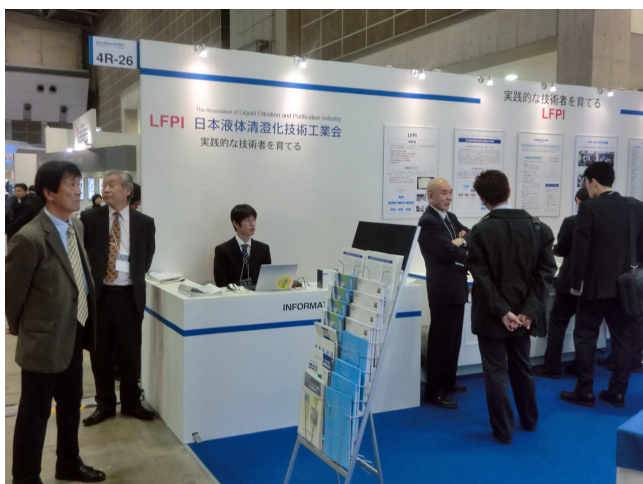
(広報委員会)



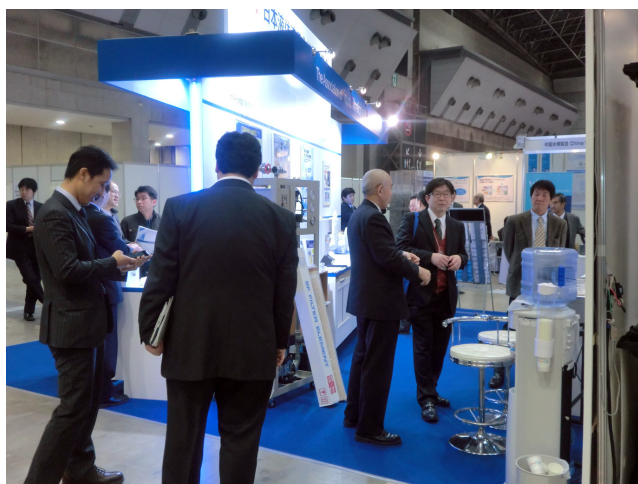
テーブルトップ5社展示部分(手前)



本部展示部分 LFPI 紹介と出版物販売



本部インフォメーション



テーブルトップ4社展示部分(中央)

# LFPI 第22回青年部会講座

## 「関西国際空港の水インフラ」

日 時：2013年2月15日(金) 14:00～

場 所：関西国際空港

出席者：21名

関西国際空港は1994年に国内初旅客・貨物の24時間国際ハブ空港として開港しました。海上に建設された511haの空港島には、旅客ターミナル、オフィスビル、ホテル、警察、消防署などの都市機能が整備されています。その都市機能を支える水処理はどのように行われているのかという事で『関西国際空港の水インフラ』をテーマに空港内の排水処理施設、焼却施設、給油施設、照明整備所を見学しました。

### 【排水処理施設】浄化センター

空港内での水処理は浄化センターで行っています。沈殿槽と凝集沈殿槽、ろ過装置を見学しました。通常時は3000m<sup>3</sup>の水を処理していますが、設備自体は10050m<sup>3</sup>の水を処理できる能力があります。沈殿槽では水が入っているところと入っていないところがあり沈殿槽の底がどのようになっているのか確認する事ができました。

参加者の皆さまも処理設備の概要などについて熱心に質問されていました。



沈殿槽の様子 浄化センターにて

### 【焼却施設】クリーンセンター

クリーンセンターは空港内で発生するごみや浄化センターで発生した脱水ケーキを焼却する目的で建設されました。

通常のクリーンセンターとの違いは

- ① 高さ制限がある事
- ② 白煙をあげないようにしている事

の2点が挙げられました。いずれも航空機への影響を考慮したものとの事でした。

ちなみに、各自治体でゴミ袋の指定がありますが、関西空港内も指定のゴミ袋があります。1枚あたり可燃ごみが13～24円、資源ごみ67円だそうです。少々お高いです…。



クリーンセンターにて

### 【航空機給油施設】

空港内には1万klの燃料タンクが10基あり、まずタンクの大きさに圧倒されます。給油はハイドラントシステムという燃料タンク車を使用せず、配管で燃料を送る方式になっています。この方式を採用しているのは国内では7空港と規模の大きな空港に限定されるようです。メリットは給油にかかる時間がかからないことで、1分間に4000ℓ給油できます。仮に50ℓタンクの乗用車であれば1分間で80台分満タンにできます。ちなみに関西からニューヨークまで片道200kl必要だそうです。ガソリン代@150で考えますと@150×200000ℓ＝……！？ 燃料代でも非常にかかっていることを実感できました。

### 【航空照明整備所】

滑走路や空港内には非常に多くの照明が設置されています。これらをすべて管理、整備しているところを見学しました。照明の洗浄は半年に1度行っており、通常の点検は滑走路を車で走行しながら確認するのが主との事でした。重要なところに設置されている照明は切れると警報が鳴る仕組みになっています。

ハロゲン電球を使用していたので寿命の長いLEDへの切り替え等は検討されているかと参加者から質問がありましたが、明るさが足りない為、採用が難しいようです。

見学開始時に青年部会スタッフを一人忘れて出発してしまうトラブルがありましたが、全行程無事に終了する事ができました。見学後の交流会も参加者のほぼ全員が出席していただきお互いに情報交換を行う有意義な会になりました。

最後になりましたが、各施設を案内していただいた新関西国際空港株式会社のスタッフの皆様に感謝申し上げます。

<ハイモ株式会社 本目 淳朗 報告>



参加者集合写真



## ＜我がふるさと函館＞

私は山形県の鶴岡市で生まれ、小学校入学時は鶴岡であったが、1年生の1学期後半には家の事情で函館に移ることになった。鶴岡はお米で有名な庄内平野の中央部に位置し、家の2~3件先は水田というところで、近所の年上の子に先導され、イナゴ捕りやホタル狩りに興じ、自然の中で大いに遊ばせてもらった思い出がかすかに残っている。

函館では、はじめ市内中心部のおじさんの家にやっかいになり松風小学校に入るが、直に函館山を仰ぎ見る恵美須町の借家に移り青柳小学校に編入。その家は函館山のふもとの坂道の途中にあり、家は2階建てで玄関へは道路より小さな板の橋でつながり、その下には倉庫代わりの地下室があった。その地下室でよく遊んだものである。が、そこで胃アトニーという胃が無力になる病気にかかり、3か月入院する羽目になった。その病院で初めてテレビを見ることが出来、病院のナースステーションの前にテレビが置かれ、子供の特権、その真ん前に陣取って現天皇陛下のご成婚のパレードを観覧させていただいた。



新島襄海外渡航の碑

小学校4年生になると再び家が変わり、今度は港のそばの仲浜町へ移り、学校も弥生小学校となる。移ってすぐにチリ津波に遭遇。波高が1.5m程度であったため港近くでも床下浸水程度で収まったが、波が引いた時には、函館港の一部は底が露わになるほどであった。仲浜町の家近くには函館税関や同志社の創立者、新島襄が海外へ密航した場所を示す碑などがあり、冬には函館税関の敷地の中でかまくらを作ったり、夏には新島襄渡航の碑のそばで水遊びをしたものであった。その当時は、まだ各家にテレビがあるような状況ではなく、近所のお金持ちの家にテレビを見に行ったり、日曜日には学校の先生の自宅に見に行ったりした。その後、自宅にもテレビを導入。初めての衛星放送で見たのがケネディ暗殺事件で、子供ながらに驚いたものである。中学校は弥生小学校のすぐ斜め上に位置する愛宕中学校で、小学校は鉄筋コンクリート作りであったが、中学校は木造で冬は各教室に石炭ストーブ1台で、ストーブのすぐそばは熱帯、窓際は寒くてオーバーを着ながら授業を受ける状態であった。

高校入学前に、湯の川温泉にほど近い深堀町へ家に移り、そこで高校3年間を過ごした。そして関西へ。関西に来てから既に40年余となり、人生の中で関西が一番長くなったというものの、やはり小、中、高と思春期を過ごした函館が私のふるさとと思う。

今は、恵美須町は末広町に編入、仲浜町も大町となり、松風小学校、愛宕中学校も統合されて無くなり、Google Mapで見ると仲浜町で過ごした家もうありません。少し寂しい思いです。

ところで、LFPIのふるさとはどこに。私の思いでは、LFPIのふるさは、そう、ヨコハマプラザホテルの地下にあった「ベネチア」ではないでしょうか。

(次回のつぶやきに続く)



## 広報委員のオフタイム

改めてオフタイムに何をしているか考えてみると、自分の中での「流行り」があることが分かりました。最近は「スマートフォン」で色々と検索したり、遊んだりしている事が多いのですが、ほぼ必ずと言ってよいほどやっているのが、「スーパーめぐり」です。特に伊豆の実家へ帰る週末は、車で15分圏内にある10軒ほどのスーパーの魚売り場をめぐり廻って品定めをするのがかなりの楽しみとなっています。



ただ単に「スーパー」といってもそれぞれのチェーンによって仕入れ元が違って来る為、置いてある魚がかなり違ってきます。また、一店舗の中に魚屋さんが2~3店入っている所などは各店でそれぞれ得意分野が違ったり、また、漁協がやっている海岸近くのスーパーなどへ行くと、一般のスーパーへ出回らない地物のお魚が売っていたりして、見つけた時は喜び勇んで買って帰り、どのように調理しようかとワクワクします。新鮮で触ると色が変わるイカや、根付の(回遊していない)黄色のアジなど、めったに見付ける事ができませんが、年に数回、「これ!!」というお魚が手に入ります。

伊豆は海が近い為、伊東港や沼津港、下田港などのお魚が多いと思いきや、意外と安売りをしているアジなどは県外産だったり、外国からの輸入物が多かったりするの事実です。また、伊豆のお土産といえば「アジのひらき」を考える方も多いかと思いますが、実は海外から安いアジをコンテナで輸入し、沼津で加工したものを「沼津産」として売っている業者も多いので、買う時は必ず生産元をチェックした方が良いでしょう。また、この辺りのスーパーでは「イルカ」も売っています。伊豆産と書かれているので、きっとどこか近海で捕獲しているのかと思いますが、私が小さい頃は普通に食べていました。父の話によると、昔、西伊豆にある土肥(とい)の港では、港のある湾がUの字型になっており、そこへイルカの群れを漁師が船で追いこんで出口を網で塞ぎ、捕獲したそうです。その時には湾内が血で真っ赤に染まったそうです。時々、「イルカの心臓」なども売っており、直ぐ近所の「シーパラダイス」などで可愛いイルカのショーを見た後にスーパーで「イルカ」を売っているのを見ると、ドン引きです。

最近は養殖技術が発達した為、アジや鯛、マグロやサーモンなど一年中新鮮なお魚がお店に並んでいますが、やはりその旬にあったお魚は格別です。「旬を味わうお魚食材図鑑(つり人社)」などを見ながら、その時期に合ったお魚を探すのも楽しいですし、最近はネットやスマートフォンで検索する事も出来ます。特に私のお気に入りにはスマートフォンのアプリ「こよみ」です。昔からのくらしの暦(日本の暦)を七十二候、その季節の意味や旬のお魚、旬の野菜、季節のたのしみを教えてくれます。皆様も是非使ってみてください。

〈富士フィルター工業(株) 高梨 愛美〉

**編 集 後 記**

早いもので今年も1/4が終わってしまいました。いつまでも寒いと思っていたら、桜はあっという間に満開に。4月から新年度という企業も多いのではと思います。今年に入りアベノミクス効果なのか、なんとなく景気が良くなっているような気もしないでもないけれど、まだまだ不安もぬぐえない方も多いのではないのでしょうか？震災から2年が経ち、まだまだ進まない復興や福島の問題など、日本が抱えている問題は山のようにありますが、それでも新年度という事で、気持ちを新たに今期も頑張っていきたいと思います。LFPIの会員企業の皆様が今年も更なる発展をされる事を願っております。

〈富士フィルター工業（株） 高梨 愛美〉

◆ 編集／発行：日本液体清澄化技術工業会 広報委員会 ◆ 住所：〒194-0032 東京都町田市本町田2087-14  
◆ TEL (042) 720-4402 FAX (042) 710-9176 ◆ LFPIホームページ <http://www.lfpi.org>